

アメリカグローバルキャリアプログラム
2019体験報告集

アメリカで

AMERICA "GLOBAL CAREER" PROGRAM

『ビジネス研修』と『企業実習』で構成される約1か月に及ぶ海外研修プログラム。
特に2週目以降の企業実習では、ロサンゼルスにある日系企業で働きながら
「グローバル人材に必要な素質」について考察し、その実践に努めます。

働く+学ぶ



東京農業大学

お問い合わせ

世田谷キャンパス・キャリアセンター / 厚木キャンパス・キャリアセンター事務課 / 北海道オホーツクキャンパス・キャリアセンター事務課

世田谷キャンパス キャリアセンター	厚木キャンパス キャリアセンター事務課	北海道オホーツクキャンパス キャリアセンター事務課
----------------------	------------------------	------------------------------



「世界で自分を試す」。

その価値ある一歩を踏み出すグローバルキャリアプログラム

アメリカグローバルキャリアプログラム概要

global

海外で生活する日本人は約135万人。そのうち3分の1にあたる約43万人がアメリカ在住です。さらにその6分の1にあたる約7万人が暮らすロサンゼルス都市圏が、アメリカグローバルキャリアプログラムの舞台です。

それはつまり、「グローバルに活躍している日本人」の姿を目の当たりにするチャンスに満ちているということ。

24泊26日間という圧倒的なボリュームの研修期間のなかで、日本では得がたい「世界で自分の力を試すための自信」が芽生えることでしょう。

internship

本プログラムがいわゆる「言語習得」「異文化理解」を目的とした海外研修プログラムと一線を画している点が、2〜3週間にわたる「インターンシップ体験」です。

ロサンゼルス近郊の受入企業・団体は20業種・80社以上。皆さんのやりたいこと・性格・英語力を丁寧に確認した上で派遣先を決定します。しかもインターンシップ先では、資料作成、リサーチ、データ入力・作成、現場同行、プレゼンテーションといった通常業務を任せられます(皆さんの仕事の達成度合により業務の幅は変わってきます)。“お客様感覚で臨む短期インターンシップ”では味わえない、厳しくも楽しい、苦しくもやりがいに満ちた時間が流れることでしょう。ビジネスの現場で何が行われていて、どんな実力が必要とされているのかわかれば、帰国後、残りの学生生活で何を身につけるべきか、が見えてきます。そうした実践的な体験に裏打ちされた「グローバルな職業観・価値観」は、将来を考えていく上で貴重な財産になると、参加した先輩方からの折り紙付きです。

No problem

アルバイトの経験しかないのに(アルバイトもしたことないのに)、本当に海外企業で実務がこなせるのでしょうか？ そんな不安を和らげる効果もあるのが、インターンシップの前に4日間かけて行われる「合同ビジネス研修」です。

「合同ビジネス研修」では、ロサンゼルス市の街の歩き方・日常英語の使い方から、世界で活躍する日系企業・団体のトップ(グローバルリーダー)の公演や企業訪問、同年代の現地大学生や現地に在住の若手日本人ビジネスパーソンとの交流がプログラムされており、研修先で求められていること、自分がやるべきことを自然と認識できるようになっています。日本全国のさまざまな大学から学生が集う研修でもあるため、良き同士・協力者・ライバル!? との出会いも期待できるでしょう。この研修を皮切りに、ホームステイと企業インターンシップに挑む日々の中で、「グローバルに活躍する自分」を単なるイメージから現実に結びつける方法をぜひ模索してください。

迷ったら
挑戦

少しでも興味があれば迷わず
応募 多すぎたと思えば
絶対良い経験が
アメリカで待ってます!!

参加しなきゃ
人生損!!
一生懸命
1ヶ月

自分の成長
へ
つながる!!
せむ、
アメリカに!

2019年度 参加学生
ひとことメッセージ

思ったら
即応募!!

人生を変える体験になります。
絶対にマズい事はありません!!
ぜひぜひぜひ、ハリウッドサインや
ディズニーランド、ロサンゼルス世界が
広がりますよ
是非お申し込み
体言周管理!
スケジュールは必ず見てください!

日本国内で
バイトしてるだけじゃ
過ぎせない
貴重な1ヶ月

チャンスがあったら
断らない!!

募集

選考

事前準備

アメリカグローバルキャリアプログラム

帰国後

- ▶7月頃より学内告知 (HP・ポスター・チラシ・キャリアセンター)
- ▶9月～10月、3キャンパス合同説明会 (3キャンパスマルチメディア中継)
- ▶申込み期間、9月～10月

- ▶英語テスト (キャリアセンター主催)
- ▶面接 など

- ▶オリエンテーション
- ▶事前講座 など

▶2月上旬～3月上旬 24泊26日間

▶報告会

1週目 ビジネス研修

ビジネス
パーソン
から学ぶ

グローバルリーダーフォーラム

誰もが知っている大手日系企業の代表者の方に、LAに進出する日系企業の現状や、今後海外で活躍していく企業に必要な新卒学生の姿をアドバイスしてもらいます。
【過去実施例】日本航空、NHK、米州住友商事会社、三菱UFJ銀行、三菱商事など
※参加者数によってはフォーラムではなく、企業に訪問してのセミナーになることがあります。

キャリアフォーラム

アメリカで活躍する日本人ビジネスパーソンを囲み、大学生活で行うべきこと、TOEICスコアと仕事はリンクするのかなど、皆さんが今疑問に思うことを聞いていただけます。様々な業界からゲストが来るので、自分の興味の幅が広がります。

同世代
と学ぶ

学生フォーラム

●現地学生との英語ディスカッション
日本人留学生やアメリカ人大学生と互いの価値観・夢・キャリア観を理解し合います。ルールは「すべて英語」であること。自分の価値観を100%英語で言えるようチャレンジしてください。
●現地大学見学(予定大学: UCLA または USC)
同世代の日本人留学生やアメリカ人学生案内のもと、現地の大学キャンパスを交流を交えながら見学します。

目標設定・発表

ビジネス研修で学んだことや得た価値観をもとに、企業実習の目標を設定しそれぞれに発表します。4日間を共にした仲間との意見交換により、モチベーションアップと多角的な視野を持った状態で企業実習にのぞむことができます。



2週目～ 企業実習



ロサンゼルスにある日系企業で働きながら、「グローバル人材とはどのような素質が必要なのか」を学んでいただきます。実際に皆さんが就職する際のお手本として、あえて米系ではなく日本人のいる企業で自分の将来の道を見出します。業務内容は事務所内での電話応対から、社員との同行によるお客様(外資系クライアント含む)訪問まで、ビジネスの前線での幅広い業務が経験できます。

ポイント

- 志望業界、もしくは働き方(人と会って営業したい、マーケティングをしてみたいなど)の軸を希望申請書と個別面談で伺いながらマッチングします。
- 希望がはっきりしていなくても面談でフォローしますのでご安心ください。

- ※希望業界が時期によって受入不可能である場合があります。
- ※提出いただく履歴書により、希望業界が不採用になる場合があります。
- ※希望業界により別途企業との面談が必要になる場合があります。

【対象者】学部1～3年。 ※留学生・帰国子女は対象としません。

【研修費用】110,000円～140,000円程度

※大学より補助金447,000円が出ています。(研修費総額約557,000円～587,000円) ※金額表記はすべて税込みです。

企画・運営/ライトハウス・キャリアエンカレッジ株式会社(LCE)

2019年度実施スケジュール

日程	スケジュール	宿泊
2月5日(水)	出発日 羽田空港発→ロサンゼルス空港着(同日)	
2月6日(木)	<p>【ビジネス研修 1日目/世界を観る・世界を感じる】 現地オリエンテーションを開催いたします。</p> <p>午前/「カリフォルニアとロサンゼルス概要」▶LCE 現地スタッフが研修地情報をレクチャーします。 「アメリカでのインターン・生活について」▶研修開始に向けて大切なご案内をします。 午後/「エスニックタウン訪問」▶ロサンゼルスの街を自らの足で散策し多文化を体感します。</p>	ホテル
2月7日(金)	<p>【ビジネス研修 2日目/世界を観る・世界を感じる】 日系トップ企業を代表する方々をゲストにお招きしグローバルリーダーフォーラムを開催します。</p> <p>「基礎講演」▶LAの地で業務展開する日系トップ企業の現場最前線についてお話をうかがいます。 「パネルディスカッション」▶“グローバル”をテーマにさらにお話をうかがいます。</p>	
2月8日(土)	<p>【ビジネス研修 3日目/友と学ぶ】</p> <p>午前/「学生フォーラム」 ▶同世代のアメリカ人学生や日本人留学生と机を囲んでのキャリア観育成プログラムを実施します。 午後/「現地大学キャンパスツアー」 ▶現地の大学生と交流をしながらアメリカのキャンパスライフを見学します。</p>	
2月9日(日)	<p>【ビジネス研修 4日目/働くを知る】 多くのLA在住若手日本人ビジネスパーソンをお迎えしてのキャリアフォーラムを開催します。</p> <p>午前/「キャリアフォーラム」▶LA在住若手日本人ビジネスパーソンの方々をお迎えします。 「ブース訪問型質問会」▶間近でお話をうかがうことが出来るQ&Aセッションを行います。 午後/「振り返り発表会」▶4日間を通して学んだことを振り返り、プレゼンテーションしていただきます。</p>	
2月10日(月)	自由行動日(お休み) ※この日のうちに周辺環境・通勤方法を各自で確認しておきます。	
2月11日(火)	<p>【働くを知る】</p> <p>※企業実習の開始日になります。 各自にて実習先まで移動し、指定の場所で現地スタッフと合流します。 実習先の担当者に挨拶を済ませ、そのまま実習を開始します。</p>	ホームステイ
2月12日(水)	<p>※各自にて通勤しながら、現地企業にて実習を行います。 ※土・日・祝日に関しては、基本的にお休みになります。</p>	
2月28日(金)		
2月29日(土) 3月1日(日)	出発日 ロサンゼルス空港発 到着日 羽田空港着	



体験報告 01



会田 千紘さん

国際食料情報学部
国際農業開発学科 3年

研修先の仕事

- 資料作成
- 事務
- レポート提出 (自主的)

研修前の思い

参加理由・目標・期待・楽しみ…

海外で実際に勤務するという事はどのような困難や、やりがいがあるのかを肌で体感したいと考えていました。英語を使った業務で自分がどれだけ会社の役に立つか挑戦するために参加しました。

心配・不安…

カリフォルニアは治安が良くないといっていたので不安でした。意思疎通や、文化の違いのせいでうまく業務をこなせないのではないかと心配していました。

農大生の皆さんへ

友人にこのプログラムを紹介されて応募したのですが、参加出来て本当に良かったと思っています。自分が体験したかった海外での勤務を実際に経験できたこと、環境に応じて適切な対応をとることが出来る柔軟性を身に付けることができたことです。もちろん楽しいだけではなく困難もありましたが、それを乗り越えることが大切だと感じました。

「WDI International, Inc」で研修



2月に参加した、アメリカにおけるインターンシッププログラムでは、職場の方と英語で会話をしながら、どのように作業をしたら一番効率よく、正確に進められるかを考えて働きました。日本とは全く異なる環境での作業は柔軟性が不可欠でした。また、日本から来た学生という立場を生かして少しでも会社に貢献できたらという思いから『今後日本で流行しそうな食材』というタイトルのもと、自らレポートの提出を申し出ました。多くのフィードバックや、インターンシップに来てくれてありがとうという感謝の言葉をいただき、自分の強みを生かして働くことが出来た達成感を感じました。

今回のインターンシップで学んだことは多様性の大切さです。私が働いていた職場では、日系、フィリピン系、南米の方など様々なバックグラウンドをもつ人が協力し合い、とても良い雰囲気の中で業務にあたっ

ていました。WDI International, Incは世界に200以上店舗を構える会社として広く多くの人に受け入れられる必要があると考えます。そのようなニーズがある中で社員の方のそれぞれの文化や宗教に基づいた知識は会社にとっての大きな財産なのだということを実感いたしました。今後就職活動を行う上で志望する会社が多様性を認め成長している会社なのかという事をしっかりと見極める必要があると思えました。また、そのうえで私自身固定概念にとらわれることの無いよう気をつけようと思えました。

そしてインターンシップはとても充実したものであったのですが、勤務日数の関係により会社への貢献度は高くなかったのではないかと思います。その点において少し悔しく思いますが、短期間でできることは全力で行ったという達成感もあるので、今後はこの経験を活かし将来のキャリアに活かしていきたいです。



ホストファミリー

私のホストファミリーはフィリピン系の家族で、とても明るく楽しい二週間を過ごさせていただきました。夕飯のときなど雑談を通して、日本とアメリカ、そしてフィリピンの文化の違いなどを話し合い、あたたかな家族のもとで非常に貴重な時間を過ごしました。

キャリアフォーラム

キャリアフォーラムを通じてアメリカで活躍されている社会人の方々のお話を聞く機会があり、多くの人が「わくわく感」を大切にしているとおっしゃっていたのが印象的でした。やはり自分が好きな事、情熱を注げるもので努力することが人生を豊かにする秘訣なのだと思います。



体験報告 02



石井 深月さん

生物産業学部
食香粧化学科 2年

研修先の仕事

- ラジオ収録の見学
- インタビューの同伴
- イベント企画会議の同伴
- 音声編集の見学
- YouTubeの動画作成
- YouTube、Facebookの動画投稿

研修前の思い

参加理由・目標・期待・楽しみ…

参加理由は海外で働くことに興味があったからです。目標は多文化社会の中でアメリカでの働き方を学び将来の視野を広げること、楽しみにしていたことはホームステイでした。

心配・不安…

英語での会話を自分がどれくらいできるのか不安でした。また、コロナウイルスが騒がれている中での渡米で、日本人ということで差別されないか心配でした。

農大生の皆さんへ

このプログラムに参加できて、将来について考え方がとても変わり、自分は何でもできる!と思うようになりました。少しでも海外で働くことに興味があるなら参加すべきです。日本でいつもと同じようにバイトをして遊んで過ごす1か月では経験することができなかったとても濃い生活ができました。大事なのは「好奇心と行動力」だと思います。頑張ってください。

「TJS Radio」で研修



プログラム中にいつも思っていたのは「アメリカで働くことは大変だ」ということです。「1つの仕事だけでは食べていけない。」とインターン先の担当者の方はおっしゃっていました。ラジオの仕事をしたり、イベントの企画の会議に行ったり、日中はオフィスにいる時間が少なかったです。また、印象深かったことは仕事上での人間関係が重要だということです。深く関わる人こそ礼儀正しく、笑顔を絶やさないと普通のことが信頼関係を築ける要素なのではないかと思いました。インターン期間中、私が徹底していたことは言われたことはメモに取り、わからないことは聞くこと、自分から仕事をもらうこと、毎日の挨拶など当たり前のことを当たり前にするようにしたこと。失敗したことは名刺の渡し方、もらい方です。名刺の交換をするのは初めてだったので、社会人としてのマナーを知らず、恥ずかしいと思いま

した。大学生のうちに気づけてよかったです。また目標達成のために意識していたことは、アメリカにいる約1か月、私は毎日、出来事や感じたことを日記に書くようにしていました。また、アメリカで働く日本の方へ会った時には「どうしてアメリカで働いているのか?」「いつからアメリカにいるのか?」などを聞くようにしていました。そうすることによって新しい考えを得ることができたので、将来の視野が広がったと思います。具体的には「嫌なこと以外はストライクゾーン」と言われてから将来どんな仕事に就いたとしても私にできることはたくさんあると思うようになりました。どんな業種でもどんな内容でも自分がその仕事に関してわくわくするような気持ちでいることが大事だと思いました。このようにこのプログラムに参加して将来の考え方が広がり、とても成長できたと思います。



知らなかった日系人の歴史

ダウンタウンにある全米日系人博物館で衝撃を受けました。そこで私は日本人が昔、アメリカで強制収容されたという悲惨な歴史を初めて知りました。日本人としてこのような歴史を知らないのは恥ずかしいと思ったので日本の歴史について学びなおそうと思いました。

ホストファミリーとの生活

ホストファミリーはフィリピン系のマザーとハウスメイト2人と犬でした。ハウスメイトが作る毎日の夕飯がとても美味しく、大好きでした。3人とも優しく、いつも気にかけてくれたので安心して過ごすことができました。とても楽しかったです!



体験報告 03



内山 花さん
応用生物科学部
農芸化学科 2年

研修先の仕事

- 翻訳
- ライバル会社についてのリサーチ
- 電話対応
- 受付
- 資料作成

研修前の思い

参加理由・目標、期待・楽しみ…

アメリカの人々は働き方について新しい考えを持っていると感じたので、実際にインターンシップに参加したり、現地の大学生と意見交換することで、自分の未来の働き方について考えたいと思いました。

心配・不安…

私のホストファミリーは68歳のおばあちゃん1人。メールの返信もなく会う前は少し不安でした。また、インフルエンザになったときに、キャリアセンターの丁寧な対応のおかげで行くことができました。

農大生の皆さんへ

とにかく、体調管理は十分なほどした方が良いでしょう。渡航前、私は体力の尽きるまでテスト勉強をし、テストが終わった後も毎日パンパンなスケジュールで友達と遊びに行ったりバイトをしていたところ、インフルエンザになりました。結局、十日ほど渡航が遅れてすぐ後悔しました。

「Globizz Corp.」で研修



私のホストファミリーは1人だけでしたが、非常に親切にしてくれて、2人で1日4時間以上、話していました。その日の出来事やお互いの家族や友達のこと、旅をしたことのある国や文化の違い、アカデミックなことから哲学的なことまでたくさんの話題について話しました。文化の違う国の全く違う年代の女性だからこそ、私は違う目線の意見をくれました。

また、私たちは宗教についても話しました。彼女は熱心なキリスト教徒で、週に3回は教会に行っていました。今まで私は宗教にゆかりがなく、漠然と宗教は怖いものと思っていました。しかし、彼女と暮らしてみたことで彼女は宗教を一つのコミュニティとしてとらえていることに気づきました。この感覚は、実際に一緒に暮らし、話しをしなければ分らなかったと思います。

インターンシップでは、理系の学科に通っていることもあり、リサーチの仕事を中心にしました。なるべく色々な仕事をしてみたいという私の希望通り、受付や電話対応の仕事も経験させてくれました。日本への出張で忙しい合間を縫って、社長がランチに連れて行ってくれました。今までの経歴や社員のモチベーション向上のために心がけていることなど、社長ならではの話を聞きました。

また、リサーチチームには私と同じ系統の学部出身の方が多くいらして、今までの経歴、アメリカの大学について、アメリカで働くことのメリットやデメリットを伺うことができました。

会社の9割以上の従業員が20代、30代と若い職場だったので、自分の近い将来の目標となるような人たちと出会えたことはありがたかったです。



仲間ができた

週末はハリウッドサインやディズニーランド、ユニバーサルスタジオに行きました。観光地をまわる中でもロスと日本の文化の違いを感じました。海外に興味を持つ人々とこのプログラムでお友達になれたことが、自分の中の大きな財産になると思います。

インターンシップ

従業員の方々は普段から積極的にコミュニケーションをとってください。最後の日のランチに私のずっと行きたがっていたINANDOUTバーガーをご馳走してくれました。素敵な方々に囲まれて幸せでした。



体験報告 04



霧生 彩乃さん
農学部
農学科 2年

研修先の仕事

- 資料整理
- 資料の要約
- アンケートの集計
- イベントの補助
- チラシ配り
- 宣伝のためのYoutube作り
- プレゼン
- 映画鑑賞

研修前の思い

参加理由・目標、期待・楽しみ…

プログラムに参加することによって、海外での働き方や海外を通じた仕事について考え、自分の将来について考えるきっかけにしたいと思い、参加しました。

心配・不安…

自分の英語力がどこまで海外で通じるのか、ホームステイ先のホストの方がどんな人なのか行ってみないとわからない部分があり、不安でした。

農大生の皆さんへ

プログラムの参加を通して、海外での働き方や自分の将来について考えることができます。将来何をやりたいかまだ決まっていなくても、現地で働いている人たちや学生たちとの交流により、見えてくるはずです。また、現地の人と関わる機会も多く、アメリカの文化についても学べます。まずは悩んだらやってみるのが良いかもしれません。

「Japan Foundation Los Angeles」で研修



4日間のビジネス研修では実際に海外で活躍している方のお話を聞いて、海外で働いている方は自分に自信を持って働いていて、何事にも目標を持って挑戦し続けることの大切さを学ぶことができました。また、海外で働くにはしっかりとした英語が信頼関係を作る上で大切であることも学びました。他大学の学生やカリフォルニア州立大学の学生と自分にあつた職業や働き方についてのワークショップもあり、自分が将来やりたいことや自分自身の分析などを他者に伝えることによって、他者からの意見をもらえ、自分の考え方や将来について見直すことができました。また、多くの人と関わっていく中で自分から積極的に行動することが重要だと感じました。初めはなかなか自分から手を上げて感想を言ったり、質問したりはできなかったですが、一度手を上げて感想や質問を言うことで、次からはためらうことなく積極的に行動することができました。積極的に行動

動することで、自分の成長へと繋がり、新しいチャンスができることを学びました。今後も積極的に行動し、経験を積んでいこうと思いました。

ビジネス研修後のインターンシップでは現地の人に向けたイベント（映画鑑賞会、刺繍展、ティータイム）の参加により、多くの現地の人と喋ることができ、海外から見た日本について知ることができました。イベント以外でも書類整理やアンケート集計などの仕事を通して、働く上で必要なスキルも学ぶことができ、社会人になる前に、ワードやエクセル、パワーポイントの使い方を詳しく勉強しようと思いました。

プログラムを通して、自分自身について考え、自分の成長へと繋がりました。この経験を活かし、将来積極的に行動でき、目標を持って、何事にもチャレンジできる人になり、社会に貢献できるよう頑張っていきたいと思いました。



現地の人たちとの交流

アメリカでおよそ1ヶ月過ごし、困った時は現地の人々が助けてくれたり、知らない人でも目があうと挨拶をしたり、ちょっとした会話を文化が素晴らしかったです。アメリカ人はみんなフレンドリーで話すのが楽しかったです。

週末の観光

週末は観光地を巡り、アメリカの文化にもたくさん触れることができました。Uberを利用することで運転手さんともたくさん会話でき、買い物をする中で英語を使う機会も多く、良い経験になりました。



体験報告 05



高井 つかささん

国際食料情報学部
国際食農科学科 3年

研修先の仕事

- 資料整理
- リサーチ
- プレゼン
- レポート提出

研修前の思い

参加理由・目標、期待・楽しみ…

大学からの補助金があり、海外で就業体験出来る機会に惹かれて参加しました。語学の向上以上にアメリカで働くという経験を得られることに大きな期待を抱いていました。

心配・不安…

初めてのホームステイや企業研修で自分の意見を主張する事が出来るのか不安でした。3年の春休みの就活を控えた時期に海外に行くことが不安でした。

農大生の皆さんへ

大学からの補助金で参加出来る農大生は恵まれていると思います。アメリカで経験を積めるだけでなく、他大学の学生と共に課題をこなす期間があり、様々なバックグラウンドを持つ人達から刺激を受けられる良い機会だと思います。選考があると思いますが、少しでも興味があれば応募する価値がある研修だと思うのでぜひ頑張ってください！

「America Tour System Inc.」で研修



研修が始まる前は英会話に自信がなく、不安がありました。私に仕事を教えてくれていた二人はアメリカ人で、それぞれ英語と日本語両方で説明してくださいました。社内で使われている書類はエクセルがベースとなっており、私は新しくなったフォーマットに移行する作業を手伝いました。手が空いた時間にエクセルで使える単語や熟語を調べ、分からないことを質問する時に役立てるように心掛けました。また、毎日空き時間に観光地をリサーチし、終業時刻近くにプレゼンをしていました。毎日数か所調べて、英語でまとめるのが大変で、ちゃんとプレゼンが伝わっているのか不安もありました。しかし、二週間毎日プレゼンを続けたおかげで英語を使ってプレゼンすることに自信がついたと思います。日本人観光客を対象とした旅行会社だったので、コロナウイルスの影響を受けており、キャンセルが増加したため対応に追われていました。アメリカの企業で

あってもやはり日系という事もあり、日本の経済状況が直接影響することがわかりました。そのため後半は社員の方が忙しく、あまり仕事を割り振ってもらえなかった事が悔しくありましたが、最終日に時間があればやっとならったという全体の仕事の流れを教えていただけました。

二週間のインターンシップを通して、実際に海外で働く姿を想像する事ができました。プログラム終了間近には社員の方に対して自分から仕事を貰いに行くなど、自発的に動くことが増えたように感じています。初めの四日間のビジネス研修の中でも日を重ねるごとに積極的に質問することが出来たので、就活でも研修で培った積極的な姿勢を出していきたいと思っています。全体を通して現地の方も日本人の方達も自分の意見をしっかりと主張できる人が多く見受けられたので、これからグローバル人材を目指すにあたって見習いたいと思っています。



ホストファミリー

ホストファミリーは中南米出身の一家で、毎日スペイン語や中南米の食事について教えてくれました。また、帰国前にはお好み焼きを作ってあげるなど食事を通してコミュニケーションを取ることができ、良い関係を築けました。

キャリアフォーラム

現地で活躍なさっている若手の方達と座談会をする機会がありました。NASAの研究機関で働いている方と話した事が特に印象に残っており、学生時代の夢をかなえ、一人の研究者として働く姿に感銘を受けました。



体験報告 06



田中 ジェシカさん

国際食料情報学部
国際食農科学科 2年

研修先の仕事

- ビデオ撮影・編集
- SNS投稿
- ファイル整理
- 資料のデジタル化
- ARアプリの導入
- sushi workshopのお手伝い

研修前の思い

参加理由・目標、期待・楽しみ…

参加するにあたって自分の得意不得意にかかわらず挑戦してみることが目標でした。特に実際に海外で働くこと、またホームステイがとても楽しみでした。

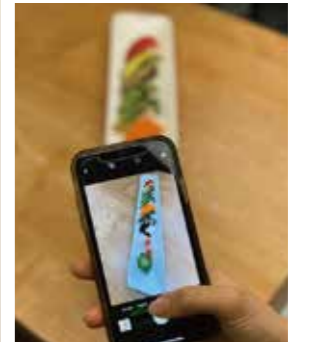
心配・不安…

私は英語があまり得意ではなかったのですが、うまく自分の意思を正確に伝えられるかが不安でした。また、人生で初めてのインターンシップがとても不安でした。

農大生の皆さんへ

このインターンシッププログラムに絶対に参加するべきだと思っています。参加しなかったら後悔してしまうと思います。海外でのインターンシップやホームステイの経験はこのプログラムだからこそ体験でき、素敵な思い出になると思います。また、自分の価値観も大きく変わると思います。ぜひ参加して、素敵な時間を過ごしてくださいね。

「Sushi Chef Institute」で研修



今回のインターンシップに参加をして、自分ももっとも努力したことは2つあります。

1つ目はビデオ撮影と編集です。このビデオ撮影もただ撮影するだけではありません。編集しやすいように一回ごとの動画の長さを短くしてみたり、撮影する際にはカメラの動かし方で、どこかしらに学校のスポンサーである日本の食品メーカーの商品を映り込ませるなど、撮影するだけでも考えることが沢山ありました。また、編集する際は、こちらが何をこの動画で伝えたいのか、またどうしたら伝えることができるのか考えながら何度もやり直ししながら行いました。また、見る側からこちらが何を伝えたいのかをわかりやすいように編集をしました。

2つ目はARアプリの導入です。このARというものは画像をスマホのカメラにかざすと動画が再生されるというものです。このアプリを導入する際に日本のア

プリ会社に問い合わせた私たちが作った動画をアプリに登録できるようにしました。画像や動画の登録、投稿を行ったりARアプリを使ってスポンサーへPRするための動画撮影なども行いました。

これらの活動を通じて、私は自分が少し成長することが出来たのではないかなと思いました。特にアメリカで働くにあたって多文化社会という環境のなかでお互いの文化を尊重することはとても大切なことなのだと思っていました。実際にインターンシップやホームステイ中で自分が尊重の気持ちをもって過ごすことが出来たと思います。アメリカの人たちはとても優しく、自分のことのように心配してくれたり、気を使ってくれたりと感じました。私が体調を崩してしまった時に朝schoolに行くこと、デスクに沢山のビタミン剤やお茶のパックが置いてあったりとても優しい暖かい国なんだと気づきました。



UCLAの学生とのサミット

現地にいる日本人の学生と交流をした際に皆で将来やりたいことについて話しました。ある学生は自分のやりたいことが詳細に決まっていて、それを実行するためには今何をすればいいのかまでしっかり考えていたり、本をもっとたくさん読んで知識をつけたいと話していました。

ホストファミリー

ホストファミリーとは、LAにある空軍基地に行ったり、夜ランニングと一緒にいたり、ビーチと一緒にいたり、映画鑑賞会をしたりなど、沢山の思い出を作ることができたのがとても嬉しかったです。本当にホームステイをしてよかったなと思います。



体験報告 07



西尾 眞奈さん

地域環境科学部
森林総合科学科 3年

「Sky Creation, Inc.」で研修



研修先の仕事

- 資料作成
- アンケートの作成
- 空港見学イベントの運営補助
- 授業の見学
- ミーティング、ブレインストーミングの参加
- 機体の洗浄

研修前の思い

参加理由・目標、期待・楽しみ…
自由でユニークな発想を持つ人が多いアメリカで日本とは異なる働き方を肌で感じ、自分らしい働き方を見つけたい、海外で働く日本人の話を聞き刺激を受けたいと考えていました。

心配・不安…

自分ひとりでのインターン先に通うことが不安でした。実際にLAでバスに乗り、降りるための合図を出したのにバスが止まらなかったときは本当に焦りました(笑)。

農大生の皆さんへ

大学3年の秋、説明会に参加しGCPを知り、面白そう!と思った勢いで応募しました。LAで3週間を過ごした今、あの時、迷わず応募して本当によかったと思います。大学3年2月という周りの人が本格的に就活を始めるため、興味はあるけど応募するか迷う人がいるかもしれません。でも、このプログラムを見つけてしまったからには応募するしかありません!

私のインターン先だったフライトスクールは、パイロットライセンスを取るための学校です。会社のスタッフ、生徒さんのほとんどが日本人の会社でした。私は、インターン先を決めるときに海外で活躍する日本人の方の話を多く聞ける、ということを重視し、航空業界の就職を考えていたわけではありません。そのためインターン先が決まった時は、全く知らない業界で不安を感じた半面、とてもワクワクしたことを覚えています。

3週間のインターンシップを通して一番印象的だったことは、会社のスタッフも生徒さんも毎日、とても楽しそうだったことです。多くの方にお話を聞くと全員が全く違うバックグラウンドを持っていました。大学生、日本で郵便局の仕事を辞めてきた人、本職がレーサーの人…。しかし、パイロットライセンスを取りたい、という熱い思いはどの人にも共通で、航空用語が飛び交う難しい授業で

も、教えているスタッフも教わる生徒さんも本当に楽しそうに勉強をしていました。インターンシップが始まる前のビジネス研修ではLAで活躍する日本人ビジネスパーソンの「ワクワクすることをしよう」という言葉が印象的でした。興味はあるけれど、はじめの一步が踏み出せない、となるのではなく思い切って一歩踏み出しワクワクしたその先で自分を成長させたいです。ビジネスパーソンの方もインターン先の方も一歩踏み出しやりたいことに挑戦する姿勢がとても輝いて見えたのだと思います。

とても刺激的なLAで過ごしたからこそ、自分と向き合い、自分がワクワクすることは何かをじっくり考えることができました。また、多くの貴重な体験をさせていただいたインターン先の影響を受け、いつか空に関わる仕事がしたい、パイロットライセンスを取りたい、と思っています。



ホストファミリー

日本食、日本文化がとても好きなホストファミリーだったため、毎晩、日本の話をしました。日本から持ってきて、ふるまったラーメンは好評でした! 英語をもっと勉強して必ずまた会いに行こうと思います。

1番お気に入りの場所

LAのLong Beachからフェリーに乗って80分、そこにはサンタ・カタリナ島という島があります。きれいな海、小さくてかわいい街並み、おいしい海鮮料理... あまり人には教えたくなけれど、時間があればぜひ行ってほしい場所です。



体験報告 08



村上 麗さん

国際食料情報学部
国際食農科学科 2年

「Kei-Ai South Bay Healthcare Center」で研修



研修先の仕事

- アクティビティの補助
- 事務作業
- 倉庫整理
- 書類整理

研修前の思い

参加理由・目標、期待・楽しみ…
実際にビジネスの場で使える英語を学ぶに行きました。また、自分のことを誰も知らない環境に身を置くことで自分を見つめ直し、成長につながることを期待して参加しました。

心配・不安…

海外での生活自体が不安でした。ホストファミリーと仲良く過ごせるか、交通手段、ロサンゼルスでの治安や、自身の体調面もとても心配でした。

一番印象的だった思い出は、「キャリアアフォーラム」です。渡米後すぐに始まる4日間のビジネス研修の最終日、ロサンゼルスで活躍する日本人の方を招待し、直接お話しする機会がありました。そこで彼らのキャリアや価値観を聞き、自分の悩みを相談していくうちに、自分の弱点、これからの課題を発見できました。「人間、嫌いなものははっきりしてる。それ以外はストライクゾーンだよ。」と講演者の一人がおっしゃっていた言葉がずっと頭に残っています。嫌いなこと以外は何でも挑戦できる、そう思わせてくれました。研修中は「少しでも次に繋がるような行動をとること」を目標としました。そのため、当たり前のことではありますが、初めて会った人には欠かさず挨拶と自己紹介をしました。また、ただ突っ立っているだけでは仕事は回ってこないの、これやってみてもいいですか?と提案し積極的に自分の仕事を取りに行きました。

私の研修先は日系人も多く居住する介護施設でした。患者さんと触れ合うことの多い職場で、楽しく、貴重な体験ができましたが、それと同時に医療福祉の現場を目の当たりにしました。介護が必要な方々が集うところなので綺麗事では済まされない、現実を突きつけられました。帰国後すぐに祖母に会いに行きたくなる衝動にかられ、私の老後は、誰の手を煩わせることなく、生き生きと健康的に過ごしたいと思うようになりました。私は、プログラム参加前と比較して、帰国してからは、他人との交流に積極的になることができました。アメリカで、文化も言葉も違う人達と働いて交流ができたのだから、日本人とコミュニケーションをとるなんて楽勝!と、自分に多少自信が付き、臆することなく自分の意思を伝えられるようになったかな、と感じます。

農大生の皆さんへ

ロサンゼルスでの生活や文化、言葉を肌で感じ、今後の自分の課題を見つけられた研修でした。非常に濃い1ヶ月でとても楽しかったです。何よりも農大からは奨学金が出ているのが大きいと思います。渡米費用と向こうでの生活費だけ用意すれば、素晴らしいプログラムとインターン研修、そしてホームステイが体験できます。

アメリカのバス

アメリカのバスは10分の遅刻なんて当たり前。バス停に立っていても目の前をスーッと通り過ぎて行ったバスもありました! しかし、バリアフリーで車椅子の方、目の不自由な方、自転車に乗る方に優しいのも特徴です。

インフルエンザ

渡米してから2週間後に突然発熱があり、病院に行ったところ、インフルエンザだと判明しました。最初は不安で仕方なかったですが、LCEの方々が病院の付き添い、ホテルの手配など、迅速に対応してくれたおかげでゆっくりと体を休め、早期完治することができました。



OB 研修プログラムに参加した卒業生に当時の思い出やその体験をどのように活かしているのかを語ってもらいました。

研修で学んだことは「情熱を持って働くこと」。
成長し続けるための原動力として今も意識しています。



出頭 一雅さん

五洋建設株式会社

地域環境科学部・生産環境工学科
2016年度卒
研修参加：3年次

現在のお仕事



■ 現在のお仕事

総合建設業の施工管理業務を担当しております。
入社後は、東北支店に配属となり、宮城県気仙沼市や岩手県久慈市などで災害復興事業を2年間担当しました。そして、入社2年目の終わりから、現所属であるマタハリ超々臨界圧石炭火力発電事業に配属となりました。

■ 研修プログラムの思い出

学生時代から海外で働きたいという漠然とした想いがある中で、キャリアセンターの担当者の方から、本研修を進言していただき、海外で働く日本人の方々知り合え、視野をひろげられるチャンスだと思い、このプログラムに応募しました。

研修先は、日本の焼肉文化を全世界に浸透させることを掲げる『REINS international』でした。そこでは、社員の方々の仕事に対する情熱が特に印象に残っています。研修中に「海外で働くうえで大切にしていること」などを社員の方々へ質問した際、とある社員の方から「私はお金を追っているのではなく、自分のしたいことを追っている。お金は後からついてくる」という言葉をいただきました。その言葉は、働く=お金を稼ぐという私の固定観念を覆し、その情熱が人を主体的にして、個人を成長させる原動力であることを学びました。

■ 研修で学んだこと、今に繋がっていること

研修で学んだことは、【情熱をもって働くこと】【信頼関係を築く鍵を見つける】【周囲が応援したくなるような人間になる】の3つの柱です。情熱を持って働くことによって、主体的になり、海外での仕事が自分自身の原動力、ひいては経験に繋がります。多様性の社会の中で、信頼関係を築くために、人種や文化が異なっても変わらないもの【家族との愛】などに目を向けることです。そして、その変わらないものが信頼関係を築く鍵になります。最後に、何事にも好奇心を持ち、相手の話に素直に耳を傾けることができる人、小さな仕事でも率先してできる人、情熱を持って明確なビジョンを話せる人は、誰もが応援したくなります。

これらの3つの柱は、この研修の中で出会った方々を見て学び、質問を経て、教わり得たことです。現在も3本の柱を意識しながら、日々研鑽しています。

■ 後輩へのメッセージ

悩んでいる時こそ、行動を起こしてください。どんな行動を起こすかわからなければ、友人や先輩、家族に相談してください。あなたの周りには、あなたを応援して、手助けしてくれる方がたくさんいることを認識してください。

海外で働こうか悩んでいる方は、ぜひこのプログラムに参加してください。

ワクワク感をもって働こう!



嫌いなこと以外は
ストライクゾーン!

研修の思い出

